

エベレスト街道周辺の山々



エベレスト登頂日 2018



中国側北稜～北東稜 by Kenro



カンチェンジュンガ

エベレスト

ローツェ

ジャヌー

チョーオユー(8201m)山頂からのエベレスト

左奥は世界第三位の高峰カンチェンジュンガ(8586m)



Changtse 7543

Everest panorama 360
from Mushroom Rock

Date/Time: 23 May 2004 04:58:54
Camera Model: NIKON D100, Lens: Nikon 10.5mm f/2.8, Focal length: 10mm (in 35mm film), Shutter speed: 1/125 sec, f/7.1, ISO: 200
by Hiro Kimoko

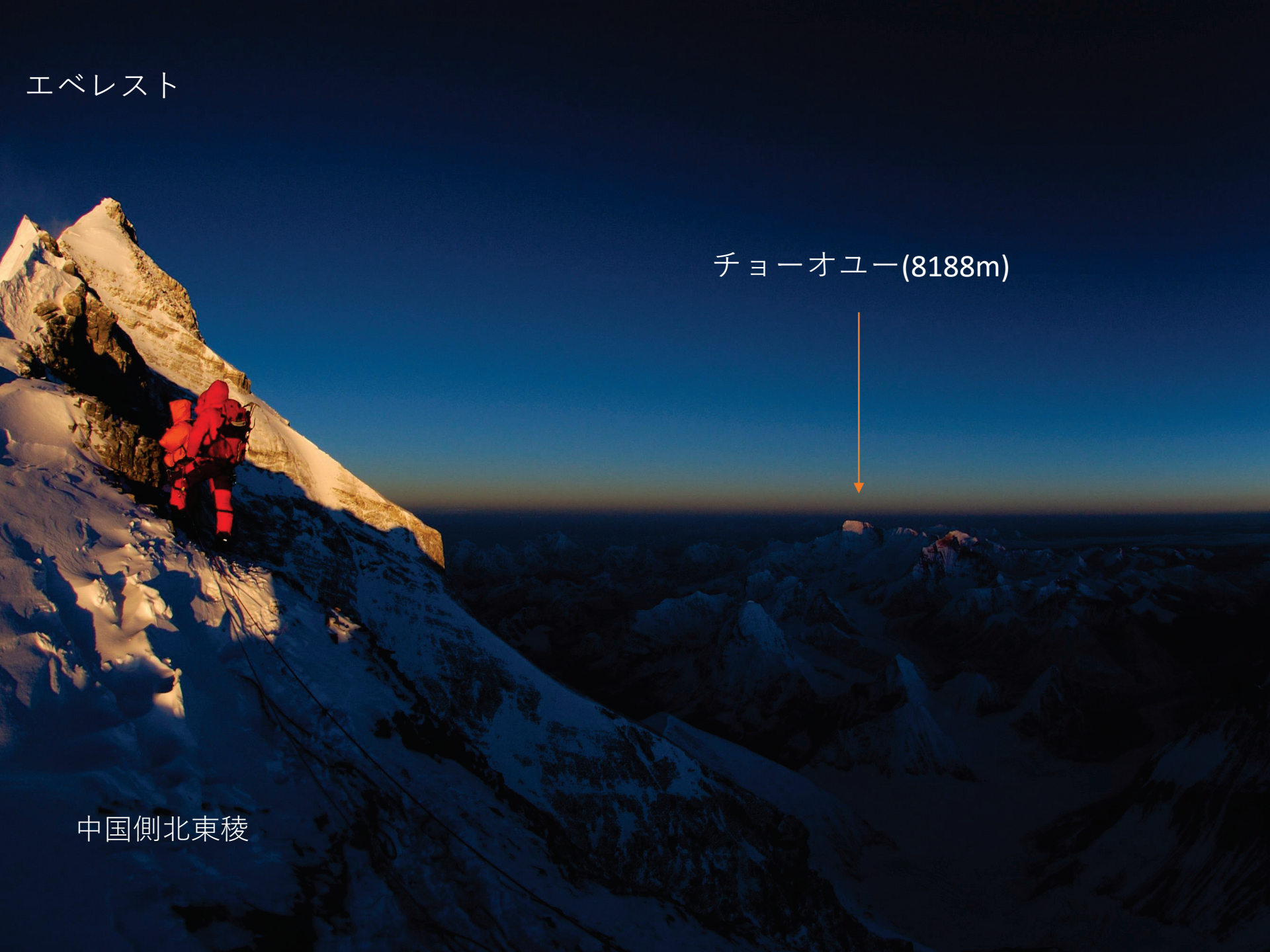
マッシュルームロック(8620m)からの360度パノラマ
(エベレスト チベット側)

エベレスト

チョーオユー(8188m)



中国側北東稜



2023.5.18 エベレスト山頂

ネパール側からの登頂は10年ぶり



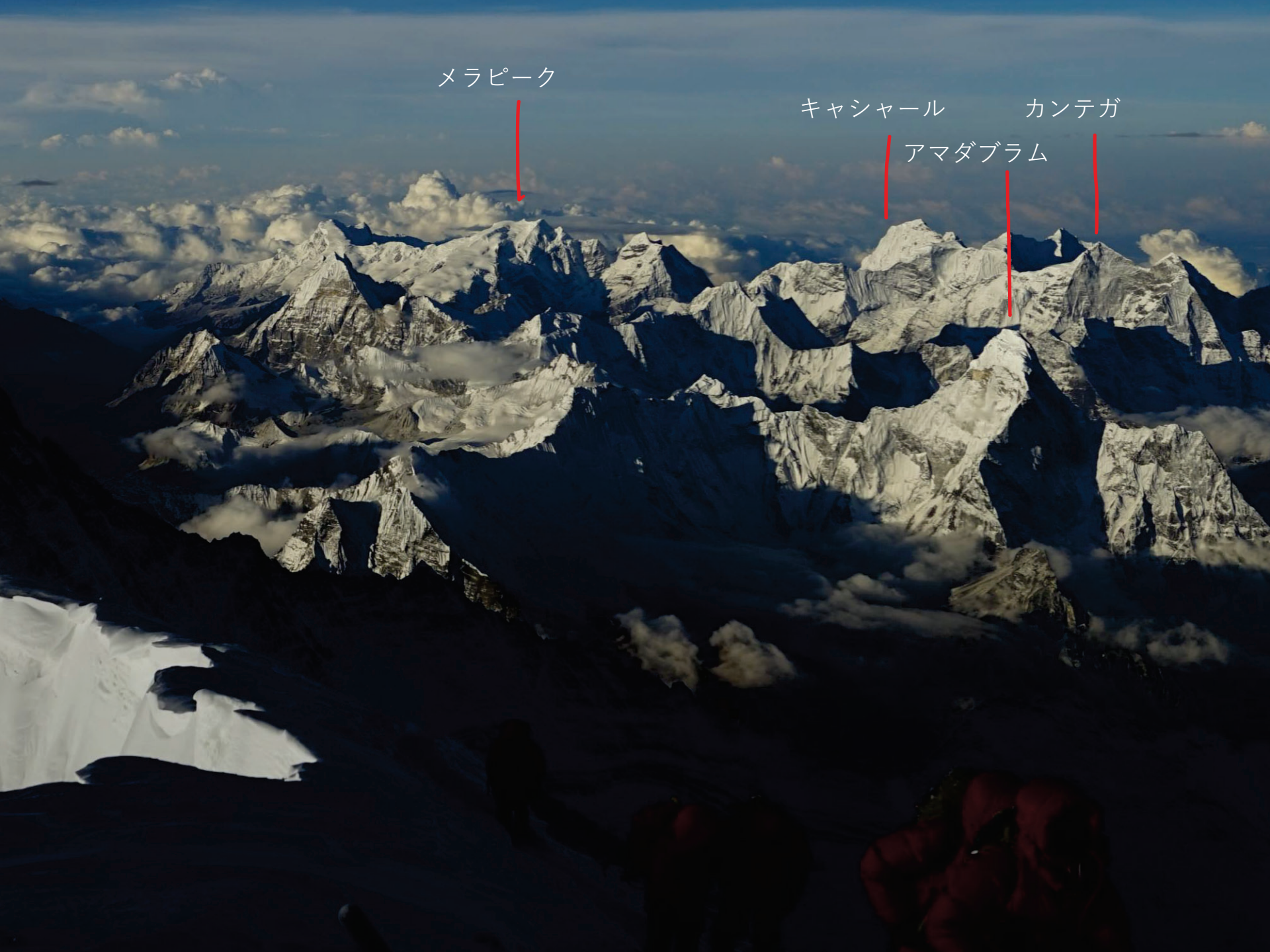


メラピーク

キャシャール

カンテガ

アマダブラム





ギャチョンガン

メンルンツェ

ヌワリハンカール

メンリツェ

ヌバダラム

カンテガ

タルセルク

エベレスト街道

ラグナウ

ナムバ

トクリ

ファディン

ピクピーク

キヤシャー

クサムカング

チャウリカ

ハンクチュ

ハンクチュ

チヘカム

ラタプク

クンデ村からアマダブラム、カンテガ、タムセルク





Tobuche

Chukhung

ディンボチェ

マブダブラム

カンピラ

Kangtega

TYANGBO
THE
त्यागबो
थ

n Pedma
Monastery
院

ナムジェン

ナムセルク

Kyashar

ナムチェ
バザール
बजार

エベレスト街道

Kusum
Kanguru

メラ・ピーク

Tok 10

Chaurikharka
चौरीखर्क

Phanding

Pike pea k

カンテガ西面



パンボチェ付近よりカンテガ(左) とタムセルク (右) 北壁





カンテガ北壁(ディンボチェより)

カンテガ東面
2019秋ルート








カンテガ東面2019年秋ルート 6000mでプラトーに出たところ

カンテガ東面上部
(メラピークより)





クムジュン3800m

アマダブラムC3(6300m)

アマダブラムC3(6300m)より



テンギラギタウ(6943m)

チョーオユー(8188m)

ガウリシャンカール(7134m)

ギャチュンカン(7982m)

ヌンブール(6958m)

プモリ(7161m)

メンルンツェ(7180m)

タボチェ(6495m)

クンビラ(5761m)

チョラツェ(6440m)

クワンデ(6187m)

キャシャール

カンテガ

タムセルク

クムジュン





タボチエ(6495m)とチョラツエ(6440m)

アマダブラムC3(6300m)より



チョラツェ(6495m)

アマダブラムC3(6300m)より



Hungchi

中国 プモリ

中絨布次川

ローツ岳

エベレストBC ヌプツェ

卓窮

サガルマータ
国立公園
सगरमाथा
राष्ट्रिय
निकुञ्ज

アムチェバザール

Tobuche

Chukhung

アイラン

Namche
नाम्चे

ディンボチェ

アムチェバザール

クンピラ

Kangtega

TYANGBO
DZANG
DZANG

Thegchen Pedma
Chholing Monastery
修道院

クムジュン

タムセルク

Kyashar

クワンデ

アムチェ
バザール

エベレスト街道

Kusum
Kanguru

Numbur

Tok lo

Chaurikharka
चौरीखर्क

Pha ding

Pike peak

ヌンブール(6958m)



アマダブラムC3(6300m)より

ロールワリン最高峰メンルンツェ(7181m)
と
ガウリシャンカール(7134m)





チロク

ギヤチュンガン

エベレスト山

メンルンツェ

エベレスト街遺

Lunagiri

Hungchi

エベレスト街遺

Dangnoki Ri

Tobuche

ティンボチ

Kang Nachugo

Takargo

Tenget Ragi tau

Namche

サガレマータ
国立公園
सगरमाथा
राष्ट्रिय
पिठुञ्ज

Kangtega

Na Village

Lalamove Mountain

クワンテ

Thegchen Pedma
Chholing Monastery
修道院

ナムチエ
バザール

ナムセルク

Kyashar

Numbur

エベレスト街遺

Kusum Kanguru

Likhu Dudhpokhari

Tok 10

Chaurikharka
चौरिखर्क

Ngeju

Dudhkunda Last Camp

Pha ding

Pike pea k

Marbu
मार्बु

Jata Pokhari

Sarjokhang

Takasindu

ルクラ

ガウリシャンカール(7134m)

メンルンツェ(7180m)

ルクラへ向かう飛行機からよく見える
かつては世界最高峰と思われていた

ギャチュンカン(7982m)



プモリC1(5670m)からエベレスト、アイスフォールの夜明け



タボチェ (6495m)

チョラツェ (6440m)

ロブチェイースト (6119m)

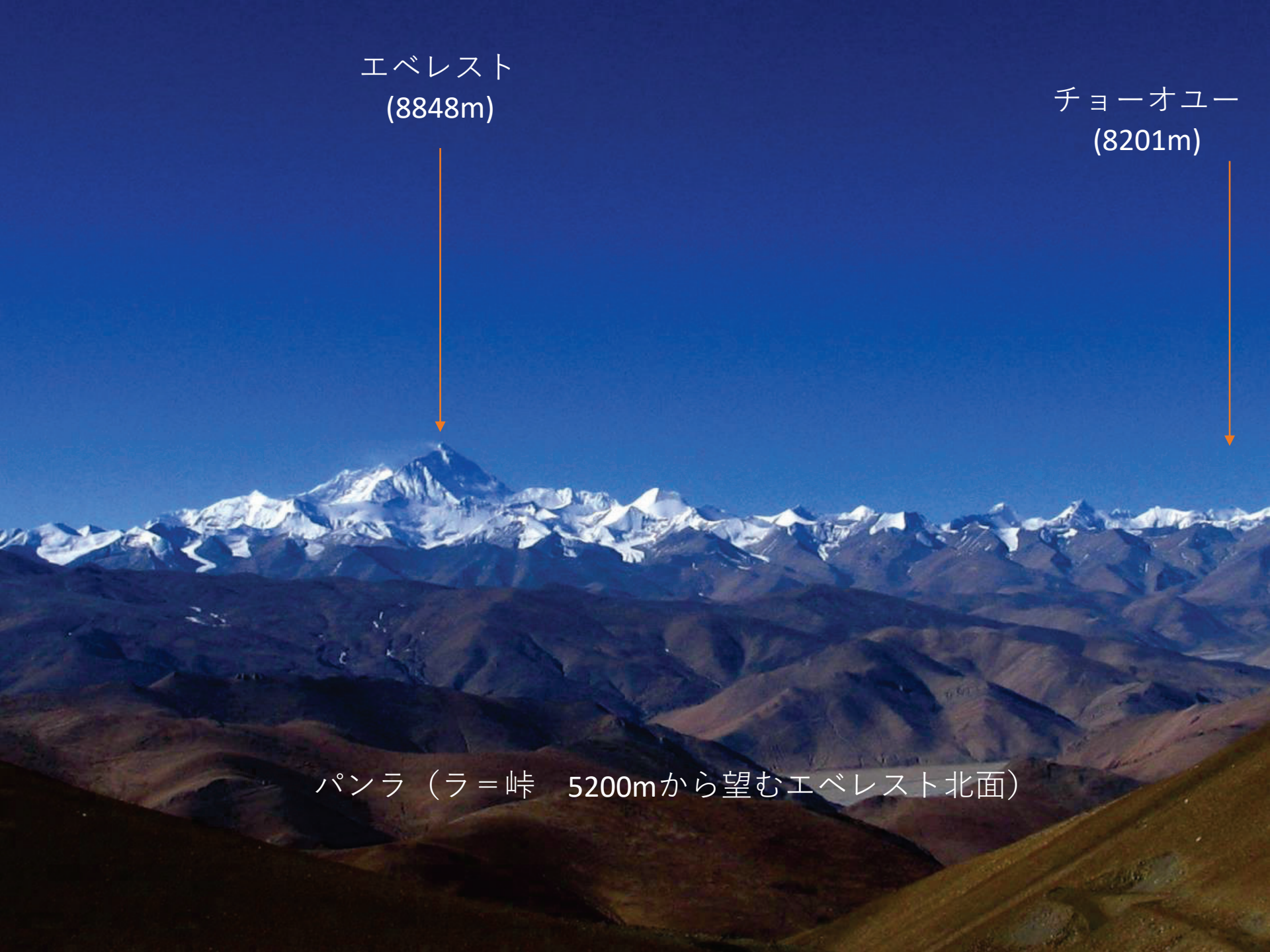


ネパール側ベースキャンプ (5350m)

エベレスト
(8848m)

チョーオユー
(8201m)

パンラ (ラ = 峠 5200mから望むエベレスト北面)





チベット側ベースキャンプ(5200m)

NHKスペシャル

ミャンマー最高峰

「カカボラジ」

2014.9.1 - 11.15

ミャンマー最高峰カカボラジ (5881m)





初登頂者の尾崎隆さん(故人)とナンマー・ジャンセン氏 1996年登頂
尾崎氏は「植村直己冒険賞」の第一回受賞者となったが、
惜しくも2012年春エベレストで遭難死している







每日雨



学校に泊めてもらうことしばしば































即席の雨避け



- ミャンマー隊捜索ヘリ

8月31日午後5時、ミャンマー隊が登頂直後に行方不明に。

ヘリ 2機を使った大規模な捜索も虚しく発見されていない。





ミャンマー隊の広告



日焼け止めの「タナカ」をみんな塗っている

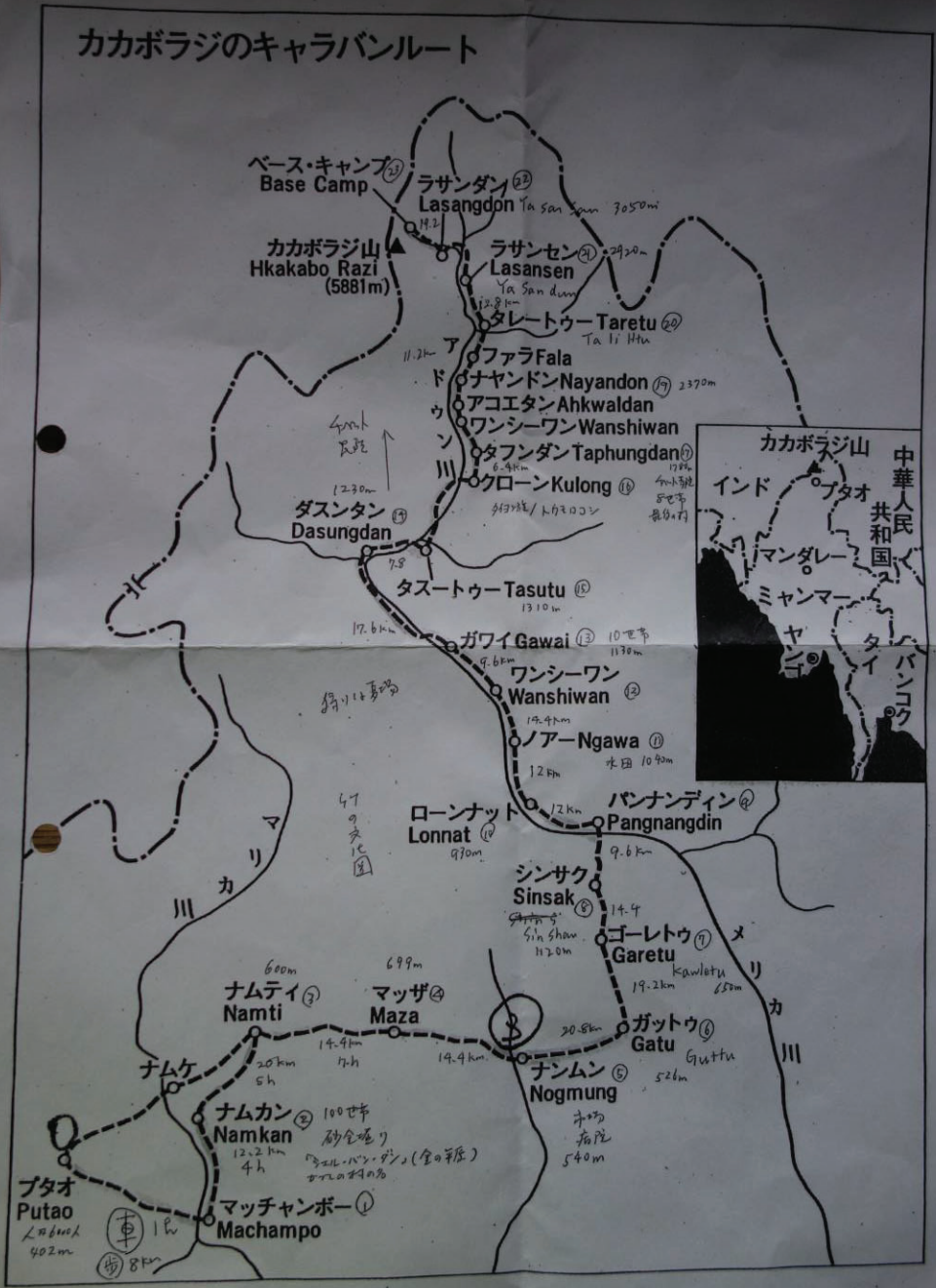
プタオの町から1ヶ月のアプローチ。標高400mから4000mのBCまで。

ほぼ毎日雨。BC手前の五日間は標高も上がり虫がいなくて快適だった。

雨季が開け、2週間の晴天期間が続き、登頂1チャンスで冬がやってきた。

帰りは3週間の歩きで軍用へりに乗ることができた。

初登頂の尾崎さんに脱帽です。









純血タロン族はもう3人しか残っていなかった



最後の村はチベット民族の村「タフンダン」ヒマラヤでよく見るタルチョーが。ここから徒歩三日で中国に抜けられるという。買い物してきたという鳥の足のつまみが美味かった。



右から二人目は、尾崎隆さんとカカボラジを初登頂し猟師のナンマー・ジャンセン氏
この人も只者ではない。今回息子さんがマンー隊の搜索ヘリに同乗し、ヘリが墜落、
行方不明となったが、遭難11日後に生き残ったクルーを連れて生還した。息子も只者
ではない。



タフダンを過ぎると道は踏み跡程度となり虫もいなくなる。だがkenroの足にはマダニが突き刺さっていた。



タフンダンから上は野営となる。食べ物は蜂の子と朝鮮人参と米。タンパク質が不足がちとなる。



虫がいなくなって焚き火が楽しいのが救いだ



蜂の子



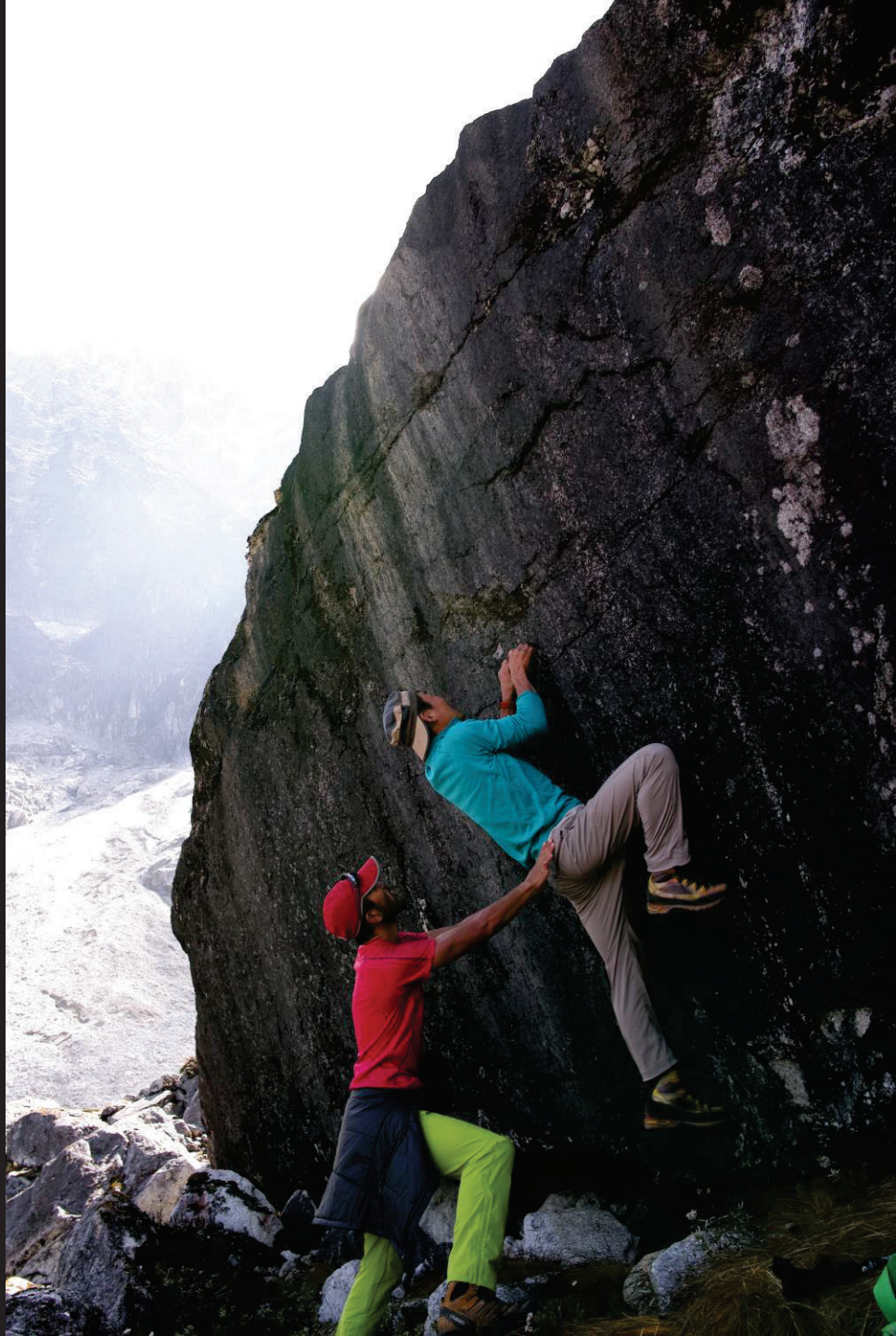
まあまあ



ベース入りの日。雨季が明けて晴天が続く



見上げる限りでは尾崎ルートは落石が危険そうだ



尾崎さんの初登頂ルートは
温暖化で下部の氷河がなくなっ
ていて落石が危な過ぎる状態
だった。

GOOGLE MAPで地形を確認すると
遠回りながら中国越境し、尾
根通しのルートが取れそうだ。

偵察に出ることに

尾根に出るルートを確認しBC
に戻る





中国側に越境して雪稜を目指す



アタック開始C1に一泊後、C2へ。



C2のKENRO、炊事は全てやってくれる。年寄りも引っ込んでろって感じ、笑



登頂日の朝、ミャンマー第2の高峰「ガムランラジ」



チベット、雲南、四川の山々をバックに登り始める



ミックスの稜線を行くが
意外と長い



天気は下り坂、
この先大ギャップが出現

フィックスロープを持ち合
わせていないので、降ると
上り返せなくなる可能性が。

雪もちらつき始めたので
撤退することに



撤退地点（5760m付近）







下山翌日雪になった。雨季の後の短い晴天直後、冬になりました。
アメリカ隊も強風で敗退しました（ナショナルジオグラフィック誌）



ベース撤収、下山開始のまさにその日、丸木橋で足を滑らせ尻を強打。その場で動けなくなる。

うずくまっていると平出くんとKENROが戻ってきてくれて助かるが、本隊は下山、たまたま上がってきたアメリカ隊に寝袋を借りることができた。

骨折ではなく打撲で済んでよかった。



ノースフェイスチームに寝袋を借りました。代わりにロープを分けてあげました
ミャンマー隊の捜索でポーターを確保できなかったそうです。



帰りも三週間歩いた挙句、軍用ヘリをゲットできました。

現在、ミャンマーの政情は想像を絶している。また山登りができる時代になってほしいものです。

倉岡裕之